



上毛新聞

JOMO SHIMBUN

前橋

'19.10.9

保険適用の新治療法 先月、県内で初施術

県立心臓血管センター

9月から保険適用となつた心疾患の新たな治療法について、県立心臓血管センター（内藤滋人院長）は8日までに、不整脈の一種である心房細動の患者に「左心耳閉鎖デバイス留置術」を県内で初めて実施したと発表した。

同センターによると、9月11日に県外在住の70代の患者に実施。患者は術後の経過が順調だったため、14

日に退院した。

心房細動は、心臓内で作られた血栓が血液に流れて詰まる血栓塞栓症を引き起こす恐れがある。今回の治療法では、左心房の上側にあり、心臓でできた血栓の90%以上が作られるとされる左心耳を、カテーテルを使い傘状の装置でふさぎ、血栓が出ないようにした。

この治療により、血栓塞栓症の予防の可能性が高まるといふ。従来の治療で使われていた抗凝固薬の長期服用が不要となり、長期の定期的な通院や食事制限などの軽減にもつながるとしている。本年度は医師の判断に基づき、今後5、10例の実施を予定している。